

壇 しつけ糸するする抜けて春の果	壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかる	壇 大方は空家なりけり枯木村
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな	壇 夏草のベンチの丈を越さんとす	壇 去年今年虚実皮膜の類なり
壇 枯色に生れし子猫の暖かし	壇 揚花火開かんとして息を止め	壇 木星から見るや土星のお正月
壇 親指で涼しく下駄を引つ掛けて	壇 菊人形の見事な解説文を読む	壇 東の果に日出づる国や御代の春
壇 六月に入りし五月の忘れ物	壇 送り火の消えたる跡を掃き清め	
壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル	壇 年輪の密なる冬の来りけり	
壇 梅雨の日々傘の折目の消えずあり	壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり	
壇 蟬の声寄せ付けず滝轟けり	壇 黒電話枯野の中に呟けり	
壇 夏痩せて乳の出悪しき牧の牛	壇 懐の暖かそうな山眠る	
壇 二等辺三角形も夏痩せて	壇 凍滝の中に凍つてをりし虹	
壇 組み立てて素麺流し試しをる	壇 若人に昭和生れのなき炬燵	
壇 うつ伏せの文庫昼寝の腹の上	壇 七五三ちやほやされてぐつたりと	
壇 祭果て提灯残る夜更かな	壇 浮寝鳥ゆつくり廻りつつ流る	
壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶	壇 押してみる柳葉魚の腹や少し凹む	
壇 太陽の億万分の一の蟻	壇 蟪蛄の腹引きずつて枯れ初むる	
壇 鯖缶に鯖の絵、猫缶に猫の絵	壇 落葉してパキッと割るるチョコレート	
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 踏まれたる落葉の横の落葉かな	

壇 春はあけぼのつひにうぶごゑあげにけり

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 落葉道チョコをパキツと割りにけり

壇 しつけ糸するする抜けて春の果

壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかろ

壇 大方は空家なりけり枯木村

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 夏草がベンチの丈を越さんとす

壇 木星から見ゆる土星のお正月

壇 枯色に生れし子猫も暖かし

壇 揚花火開かんとして息を止め

壇 東の果の日出づる国の御代の春

壇 親指で涼しく下駄をつっかけて

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 懐の暖かさうに山眠る

壇 組み立てて素麺流し試しをる

壇 若人に昭和生れのなき炬燵

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 七五三ちやほやされてぐつたりと

壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶

壇 焼く前の柳葉魚の腹を押してみる

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 蟻螂の腹引きずつて枯れ初むる

2025・9・19【俳壇賞2025 A t-3 全129句】 選26句

12行3段組14ボ 2025年6月20日 00:25 へ1 へ桐10

壇 春はあけぼのつひにうぶごゑあげにけり

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 木星から見ゆる土星のお正月

壇 しつけ糸するする抜けて春の果

壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかろ

壇 東の果の日出づる国の御代の春

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 夏草がベンチの丈を越さんとす

壇 枯色の子猫なれども暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 親指で涼しく下駄をつっかけて

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 若人に昭和生れのなき炬燵

壇 組み立てて素麺流し試運転

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 焼く前の柳葉魚の腹を押してみる

壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶

壇 落葉道チョコをパキンと割りにけり

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 大方は空家なりけり枯木村

2025・9・20【俳壇賞2025 A t t 4 全135句】 選26句

12行3段組14ボ 2025年6月20日 18:17へ1<桐10

壇 春はあけぼの待ちに待ちたる産声が

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 東の果の日出づる国の御代の春

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかろ

壇 木星から見ゆる土星のお正月

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 しつけ糸するする抜けて春の果

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 七五三ちやはやされてゐたりけり

壇 夏草がベンチの丈を越え始む

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 組み立てし素麺流し試運転

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 親指で涼しく下駄をつっかけて

壇 若人に昭和生れのなき炬燵

壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶

壇 焼く前の柳葉魚の腹を押してみる

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 大方は空家なりけり枯木村

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 親指で涼しく下駄をつつかけて

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 大方は空家なりけり枯木村

壇 しつけ糸するする抜けて春の果

壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかろ

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 東の果の日出づる国の御代の春

壇 眩しさは制服にこそ更衣

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 夏草がベンチの丈を越え始む

壇 天高くオリンピックの馬場馬術

壇 釣堀も箱庭もある宿屋かな

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 組み立てて試し流しの素麺よ

壇 先頭は子狐の持つ狐火か

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 大方は空家なりけり枯木村

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 水鳥の踵楽しく着水す

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 よろよろとのぼり来りて大花火

壇 釣堀の箱庭のある宿屋かな

壇 天高くオリンピックの馬場馬術

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 組み立てて試し流しの素麺よ

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵染しく着水す

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高くオリンピックの馬場馬術

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 組み立てし流し素麺ながし初む

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵染しく着水す

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高くオリンピックの馬場馬術

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 蕾の重さ花の重さとなりにけり

壇 天高く馬を操る馬場馬術

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 我が道を行くは糸瓜と南瓜かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 花瓶から出られずにゐる春の闇	壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ	壇 電話線枯野の果の果までも
壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる	壇 明滅の如くひらひら黒揚羽	壇 おほかたは空家なりけり枯木村
壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪	壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥	壇 ガス管をガスが通りぬ虎落笛
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな	壇 二等辺三角形も夏痩せて	壇 長きもの短く切つて根深汁
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし	壇 送り火の消えたる跡を掃き清め	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 蕾の重さ花の重さとなりにけり	壇 天高く馬を操る馬場馬術	壇 止りをる破魔弓飛び去る通過駅
壇 六月に入りし五月の忘れ物	壇 我が道を行くは糸瓜と南瓜かな	壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル	壇 川底に続く海底秋の暮	壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た	壇 年輪の密なる冬の来りけり	
壇 組み立てて素麺流し流し初む	壇 七五三ちやほやされてゐたりけり	
壇 太陽の億万分の一の蟻	壇 山眠るその懐の鳥獣	
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻	壇 落葉道パキンと割つてチョコレート	

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢飛び去る通過駅

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高く馬を操る馬場馬術

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 蕾の重き花の重さとなりにけり

壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかる

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高く馬を操る馬場馬術

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 蕾より花の大きくやはらかく

壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかる

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕾より花の大きくやはらかく

壇 天高く馬を操る馬場馬術

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 東京の人に混りて避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 大仏は座しぬ寝釈迦は寛ぎぬ

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 二等辺三角形も夏痩せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 東京の人に混りて避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 大仏は座しぬ寝釈迦は寛ぎぬ

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ねがはくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 東京の人がぞろぞろ避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 万緑に光るは斧よ鋸よ

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 大仏は座しぬ寝釈迦はゆつたりと

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 東京の人がぞろぞろ避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 万緑に光るは斧よ鋸よ

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 啓蟄や長き線路の曲がるとも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 奥様は魔女の末裔花吹雪

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 東京の人がぞろぞろ避暑の駅

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

壇 啓蟄の現場の声の小さくとも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 大仏は座して寝釈迦は太々と

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 奥様は魔女の末裔花吹雪

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 東京の人がぞろぞろ避暑の駅

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

壇 啓蟄の現場の声の小さくとも

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

壇 大仏は座して寝釈迦は手枕に

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 奥様は魔女の末裔花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 東京の人がぞろぞろ避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 足の裏乗せて涼しや下駄の上

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

2025・7・30【俳壇賞2025 A t 20 全15句】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月30日 09:31 へ1 へ桐10

壇 奥様は魔女の末裔花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 足の裏乗せて涼しや下駄の上

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 角の家更地となりぬ霜柱

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 東京の人がぞろぞろ避暑の駅

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

壇 奥様は魔女の血を引く花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 足の裏乗せて涼しや下駄の上

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 角の家更地となりぬ霜柱

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 東京の人がぞろぞろ避暑の駅

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 組み立てし素麺流し流し初む

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

壇 奥様は魔女ダーリンに花吹雪	壇 容赦なく虫切り刻む草刈機	壇 ガス管をガスが流るる虎落笛
壇 百番も百一番も春の星	壇 太陽も西瓜も丸く大いなる	壇 長きもの短く切つて根深汁
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな	壇 送り火の消えたる跡を掃き清め	壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 蕾より花は大きくやはらかく	壇 天高く大障害馬場馬術かな	壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅
壇 六月に入りし五月の忘れ物	壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜	壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル	壇 川底に続く海底秋の暮	壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり	壇 角の家更地となりぬ月今宵	
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽	壇 年輪の密なる冬の来りけり	
壇 谷川に晒せど子らの日焼かな	壇 山眠るその懐の鳥獣	
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た	壇 電話線枯野の果の果までも	
壇 組み立てし素麺流し流し初む	壇 落葉道パキンと割つてチョコレート	
壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥	壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村	

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 容赦なく虫切り刻む草刈機

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 一番星も百番星も春の星

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 角の家更地となりぬ月今宵

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 谷川に晒せど子らの日焼かな

壇 山眠るその懐の鳥獣

壇 組み立てし素麺流し流し初む

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

2025・9・4【俳壇賞2025 A t-24 全128句】 選23句

壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 一番星も百番星も春の星 壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 月天心更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽 壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 谷川に日々晒せども日焼の子 壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み上がる 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 紙から土へ封切の種子袋

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかに怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月天心更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 谷川に日々晒せども子の日焼

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み上げて

壇 地下街の硝子輝けクリスマス

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰 壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 月天心更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽 壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 谷川に日々晒せども子の日焼 壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み上げて 壇 地下街の硝子に映ゆるクリスマス

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 足場して梁や柱や春の雷 壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰 壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽 壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 日焼の子日々谷川に晒せども 壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み立てて 壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり

壇 明日からの素麺流し組み立てて

壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

壇 四国にはスタンプラリー藤の花

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 大氷柱なりヒョウチュウと言ふべかり

壇 土砂降りのあの遠足を語り草

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 細く長く風船の尾も空をゆく

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 巣箱にはカーテンのなき目覚めかな

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 明日からの素麺流し組み立てて

壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 四国にはスタンプラリー藤の花

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 大氷柱なりヒョウチュウと呼ぶべかり

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 土砂降りのあの遠足を語り草

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 細く長く風船の尾も空をゆく

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 長きもの短く切つて根深汁

2025・9・19【俳壇賞2025 A t 30 全15】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月19日 17:06 へ1 桐10

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 明日からの素麺流し組み立てて

壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 大氷柱なりヒョウチュウと呼ぶべかり

壇 四国にはスタンプラリー藤の花

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 土砂降りのあの遠足を語り草

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 細く長く風船の尾も空をゆく

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 日本は白地に赤く雪兎

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 明日からの素麺流し組み立てて

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 四国にはスタンプラリー藤の花

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 大氷柱なりヒョウチュウと呼ぶべかり

壇 土砂降りのあの遠足を語り草

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 細く長く風船の尾も空をゆく

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 日本は白地に赤く雪兎

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 この駅を支線の出づる時雨かな

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 明日からの素麺流し組み立てて

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 氷柱太々ヒョウチュウと呼ぶべかり

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 四国にはスタンプラリー藤の花

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 待て待てと風船の尾も空をゆく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 日本は白地に赤く雪兎

壇 土砂降りのあの遠足を語り草

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 この駅を支線の出づる時雨かな

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 明日からの素麺流し組み立てて

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 氷柱太々ヒョウチュウと呼ぶべかり

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 金屏に金の雨ふる真暗闇

壇 四国にはスタンプラリー藤の花

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 空をゆく風船の尾の長きかな

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 土砂降りのあの遠足を語り草

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 日本は白地に赤く雪兎

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 この駅を支線の出づる時雨かな

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 地下街は硝子映えしてクリスマス